

香童の柊

No. 14

壬生町立稲葉小学校 学校便り

平成29年10月2日

文責：校長 廣田 昌英

親のいぬ間に.....

運動会の前に5年生の教室をのぞいてみました。子ども達が俳句を作っていました。ある児童の作品は、「天然の サンマが秋を 連れてくる」。いいですねえ。家族で秋の味覚を楽しんでいる情景が目には浮かぶようです。サンマで秋を感じる小学生がいること自体がうれしいですよ。今年はサンマが不漁だそうです。1匹いくらぐらいまで値上がりしてしまうんでしょう？

ところで、こんな作品を作った児童もいました。「冷蔵庫 開けっ放しで 涼んでる」.....。夏休み、この子はこんなことしてたんですね。保護者の皆さん、8月分の電気料のチェック、必要かも知れませんよ。

大切な経験値

給食の配膳のとき、ある児童が汁の入った器を両手で持って歩いていました。その児童はまっすぐ前しか見ていないので、器がだんだん傾いてきたことに気がつきません。やがて汁がこぼれてしまいました。ただそれだけの出来事なのですが、私は経験値の大切さを感じました。小学生は誕生日が来るたびに生きている時間が10%ぐらい増加します。だから、学年が一つ違うだけでずいぶんと器用さも変わります。でも、時間だけの問題でしょうか。もしかしたら我々大人達が手をかけ過ぎて、子どもが経験を積む機会を奪ってはいないでしょうか。保護者のみなさん、地域の皆さん、ときには我慢強く、試行錯誤する子どもの見守りに徹してみてください。たくさんの経験を積ませてあげてください。

ちなみにこぼれた汁、まわりの児童達が気付いて、あっという間に床をきれいにしてくれました。これは本校児童の安定した素晴らしさです。

「気付き」を育てる

5年生の授業はネタが満載です。その日は国語の授業で「よりよい生活にするための提案」を子ども達が考えていました。「いじめをなくす」「ゴミのポイ捨てをなくす」などの他に「日本の食文化を残す」という提案までありました。なかなか視野が広いですよ。そんな中、特に私の目を引いた提案が「地域とのコミュニケーションを」です。ノートには理由も書き込まれていました。「地域の方々が順番で交通指導をしてくれているのに、自分たちはあまりあいさつができていないから」だそうです。この子は、自分たちのために活動してくれている大人に対して、「おはようございます」も言えないことを恥じているんでしょうね。この大局的な視野には驚かされました。お見事です。

河又先生、これからも子ども達の豊かな発想力、創造性をどんどん伸ばしていってくださいね。

やっぱりコンビニ

ある日の2校時目、古郡先生が3年生の教室で書写を教えてました。ご存じの通り、古郡先生は書道の達人ですから指導はお手のもの、子ども達は生き生きと取り組んでいました。で、その後すぐの3校時、校長室に近い家庭科室でなにやら物音が。のぞいてみたら、古郡先生が一人きりで作業中でした。今度は人体模型ではなく、ミシンに向かっていた。子ども達にミシンの仕組みを理解させるのに、上糸と下糸の色を変えて縫ってみたらどう見えるか実験してとのことでした。古郡先生、何でもこなしちゃうんですね。ちなみにこの日の昼休みは、リトマス紙を使った実験のために、酸性・アルカリ性水溶液を作っていました。ホント、コンビニみたいなすごい人です。